

募集期間

2011年12月22日(木) - 2012年2月6日(日)

消印有効

映像作品集 募作像

テーマや時間、
ジャンルは自由。
自分の才能を
咲かせよう。



image: [TATAMP] 水江未来

イメージフォーラム・フェスティバル2012 ● ジャパン・トゥモロウ [一般公募部門]

日本で最大規模の映像アートの祭典「イメージフォーラム・フェスティバル」では斬新な映像作品を募集します。実験映画、ドキュメンタリー、アニメーション、ドラマなどジャンルや方法、時間の制限は一切ありません。既成の概念を超える、映像表現の地平を切り拓く作品をお待ちしています。2012年ゴールデンウィーク開催の東京を皮切りに、京都、福岡、名古屋、横浜などでの開催を予定しています。詳しい会場、会期は決定次第webで発表します。



2011年度受賞作品

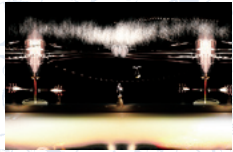
◎大賞

『THE 梅屋商店』渡辺亮



◎寺山修司賞

『遣取』小室萌佳



◎優秀賞

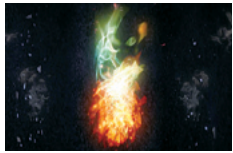
『EDEN』磯部真也



『17歳』佐々木優



『狐火』土屋由貴



◎観客賞

『ホリデイ』平野遼(東京、名古屋)、『THE 梅屋商店』渡辺亮(京都)、『EDEN』磯部真也(福岡、横浜)



▲イメージフォーラムフェスティバル2011授賞式

審査総評

◎最終審査に残ったノミネート24作品は、いずれもレベルが高く、大変見応えがありました。それぞれの作品に評価する点があり、審査は簡単ではありませんでした。結果的にこのような入賞結果となりましたが、飛びぬけた作品による結果というよりは、序列をつけるのが難しく、僅差での結果です。

◎大賞の『THE 梅屋商店』は、構想力、実験性に優れ、生活空間に根付いた映像世界の構築が高く評価されました。寺山修司賞の『遣取』は、常に驚きを画面の中に持続させ、静かな展開ながら挑戦的である点が高く評価されました。優秀賞の『EDEN』は、作品制作のデジタル化が進む中、フィルムの粒状性の微妙な質感を生かし、圧倒的な風景を切り取った点が高く評価されました。優秀賞の『狐火』は、日本の文化

2011年度最終審査員(50音順・敬称略)

市山尚三 ◎ 映画プロデューサー

奥山順市 ◎ 映像作家

村山匡一郎 ◎ 映像研究者

的な記憶を喚起し、観客の想像力を刺激する点が高く評価されました。優秀賞の『17歳』は、完成度としては粗削りではありますが、若い息吹に満ちたパワフルな存在感が魅力的で、その点が高く評価されました。以上が受賞理由です。

◎「いずれもレベルが高く、審査は簡単ではなかった」という総括はよくありがちなコメントで、実際にはそうは言ってもそうでないことが多いのですが、今回は本当に順位をつけるのがむずかしく、かなりのレベルに達している中で、三人の審査員の一致した結果でした。今回の最終審査に残った24作品の監督、作者の方々はみな素晴らしい才能を持っていると思います。今後も映画制作を続けていかれることを楽しみにしています。

イメージフォーラム・フェスティバルとは?

「イメージフォーラム・フェスティバル」とは作家性、芸術性、創造性の高い映像作品を世界中から集めて上映する映像アートの祭典です。1987年にスタートし本年度で26回目の開催となる日本最大規模の映像フェスティバルです。

2012年度最終審査員

(50音順・敬称略)

石田尚志 ◎ 画家、映像作家

四方幸子 ◎ メディアアート・キュレーター

—他、外国人審査員を予定しています

ノミネートされると?

1次審査を経て決定されるノミネート作品は、イメージフォーラム・フェスティバル全会場で上映されます。さらに、海外の映画祭やメディアアート・フェスティバルなどにおける選考対象作品としてイメージフォーラムが推薦します。

[近年のノミネート作品の海外上映歴]*主要なもの

- ◎『私の痕跡』永岡大輔 ▶ 2011年バンクーバー国際映画祭、2011年ローザンヌ・フィルム&ミュージックフェスティバル、2012年ロッテルダム国際映画祭
- ◎『ホリデイ』平野遼 ▶ 2011年ローザンヌ・フィルム&ミュージックフェスティバル
- ◎『ガクセイプロレスラー』今成夢人 ▶ 2010年バンクーバー国際映画祭
- ◎『Experiment for Animated Graphic Score』吉田悠 ▶ 2010年バンクーバー国際映画祭
- ◎『family』山田園子 ▶ 2010年ロッテルダム国際映画祭
- ◎『ニコトコ島』大力拓也・三浦崇史 ▶ 2009年ロカルノ国際映画祭
- ◎『ragged film #1-4』島田量平 ▶ 2009年・2010年ロッテルダム国際映画祭、2009年ロカルノ国際映画祭
- ◎『チケット売場の桜井さん』金東薫 ▶ 2011年ローザンヌ・フィルム&ミュージックフェスティバル